

日々の暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長

安心して

子どもが育てられる
社会のしくみが必要です

立春を過ぎると少しずつ日が延びてきます。夜遅くまで起きて朝はゆっくりという夜型生活になつてはいませんか。人間の体には朝起きて食事をし、昼活動して夜眠るという体内時計が備わっています。これは乳幼児期に確立しておくべき基本の生体リズムです。親のつごうで子どもに夜更かしをさせたり、朝食を食べさせないようでは、子どもの健やかな成長は望めません。

経済格差が社会問題になっていきますが、母子家庭で深刻です。子ども手当も一つの方法ですが、一

時的なサポートでは根本的な解決にはなりません。子どもを安心して育てられるような社会保障制度や保育園の充実、病児保育など、社会のしくみをつくらなくてはなりません。地域社会のボランティアは高齢者支援に向いており、子ども支援に対しては不充分です。北欧では子どもから高齢者まで安心して暮らせる社会が、国民の高額な税金によって支えられています。日本ではまだ個人個人で対応しなければなりません。子どもに十分に愛情を注ぎ、健やかな成長が見守れる社会を築きましょう。